

心に響く Challenge & Humanity 「実践社会学」 特別プログラム



「傾聴と対話」

令和2年6月11日、18日、25日の3日間を通じて、科目「実践社会学」の特別プログラムが行われました。「傾聴と対話」というテーマの中、学生達が”他者の話”をじっくり聴き、”自分自身の内面”と向き合う機会を得ることを目指しました。また、これらは、リーダー的人材の育成の一要素として非常に重要な過程です。

1日目は、「傾聴」することを学生同士のペアワークで実践、2日目は、1日目の経験を踏まえて地域の社会人の話を直接聞く機会を設けました。最終日は学生同士の”対話”を通じて、1日目2日目に感じたことをそのまま言葉にしてみるというワークを行いました。

尚、2日目の様子については新聞やテレビの取材を受け、県内に広く報道されました。

巧みな3段階の仕掛け

初日は、学生同士で”傾聴”しあう中で、見知った仲間の新たな一面を知ることができたり、それまで知らなかったお互いの新たな共通点が見つかったりと発見の多い日となったようです。

2日目は社会人の方々をお招きして、お話をうかがいました。同じ社会人でも学生らと全く境遇の違う方、似たような境遇から着実に成果を上げていった方、独自の経験を積み上げていった方、様々な方の話を聴く中でそれぞれ感じるものがあった様子でした。

最終日には2日目の対話を思い出す中で、まだ整理のつかない学生、行動に移そうと考える学生、様々な変化がそれぞれの内に起こったようです。



さあ 未来へ向かって

初日から変化が現れたり、2日目に衝撃を受けたり、または3日目にして発見があったりとプログラムの中で学生ひとりひとりが、それぞれの受け止め方で経験を積み上げました。最終日の全体共有では、自分自身の内から出る言葉に熱を乗せて、プログラムの感想や決意を述べる学生達の姿が印象的でした。

本専攻科の一期生22名が、この3日間のプログラムを通じて触れたもの、感じたことが、人生をたくましく、しなやかに生きる大きな力となってくれることでしょう。

◎学生の感想(抜粋)

・この3週間で、聞く、話すのレベルアップができたと思う。Wさんのポジティブな話し方はとても聞きやすかった。ポジティブに喋ればより伝わるということを学び、自分もそういうふうになれるようにたくさん喋る機会をつくりたい。

・今は具体的なことは言えないが、授業を聞く前より少しは具体性が見えたので自分で行動して行く。今までは人に頼る癖があったが、3回の取り組みを通して改善へ向かっていると実感。

・自分とはまた違った考えもあり、同じような価値観もあり色々勉強になりました。自分がもし同じ立場ならどうしたのか、なども考えることができました。普段考えないこともたくさんあったので良い経験となりました。

SPH川柳

未来へと
対話を重ね
光見る